

地域の皆様のご協力のもと、本市で放課後まなび教室事業を開始して10年目という節目を迎えました。

今年度も、6月の全体研修会に加え、実行委員会やスタッフの皆様からいただいたご意見等をもとに、11月頃にテーマ別研修会の実施を予定しています。詳細が決まり次第お知らせします。3月に配布した教材「京ことばに親しもうカルタ」をはじめ、市教委作成の教材集もさらに充実させていきます。ご期待ください。

さて、今号は、平成27年度の取組から、各教室で実際に工夫されている点をピックアップしました。少しでも自校の取組の参考になれば幸いです。引き続き、よろしくお願ひいたします。

「放課後まなび教室」のちょっとした工夫 ~27年度の取組実践から~

活動、時間配分の工夫

「きばってます」。うちの教室では、こんなとこ。

- 宿題を中心につつ、前半15分は地域の方に紙芝居や読み聞かせをしてもらい、終了15分前には将棋、百人一首、オセロ等をしてもよいとするなど、活動にメリハリをつけています。(上京区)
- 1日の中で三つの時間を用意し、①宿題をする時間、②スタッフが準備したプリントをする時間、③歴史カルタやチェスなどをする時間に区分。さらに②を頑張った児童には努力を認める賞状を発行している。(左京区)
- 児童の興味関心をもとに、時事問題や新聞のニュース記事を知らせて自主学習をするように働きかけたり、金曜日には習字をして礼儀や心構えを大切にした取組を進めている。(右京区)

情報発信、広報の工夫

- 保護者の理解を得るため、1年生の懇談会でスタッフが趣旨を説明したり、PTAが放課後まなび教室を取材し広報誌に掲載したりしている。(北区)
- 放課後まなび教室のスタッフの顔写真を教室前に掲示している。(中京区)
- 毎月、放課後まなび教室ニュースを発行している。(上京・伏見区)

学校との連携方法の工夫

- 毎月スタッフ会議を開催し、配慮の必要な児童の状況を確認したり、教員からの助言を得たりして児童の様子の把握に努めている。(多数)
- 学校の教職員が参加児童に対して的確な声かけをしたり、頑張っている又は気になる児童の様子をスタッフが教員に伝えるなど、相互に連携を図っている。(多数)

学習意欲を高める工夫・教室環境の工夫

- 終了前に、毎回「ことわざ」を一つ選び児童に書写をさせている。その作品を定期的に図書館に掲示し児童を励ます工夫をしている。(西京区)
- カーペットを敷き、座卓、机をそろえ、くつろげる雰囲気に努めている。(山科区)

放課後まなび教室における「子どもへの対応方法」「教材の工夫」「保護者・学校・児童館との連携」の事例をまとめた「実践事例集」や広報紙「放課後まなびニュース」など、様々な情報を教育委員会ホームページに掲載しています。是非ご覧ください。(京都市教育委員会→生涯学習→地域ぐるみの教育→放課後まなび教室)

編集後記

日々の皆様の実践は全市共通の財産です。多くの教室に取材に行きたいと思っています。研修会の内容や教材など、多くの情報を共有していくべきと考えています。ご意見など気軽にお寄せください。